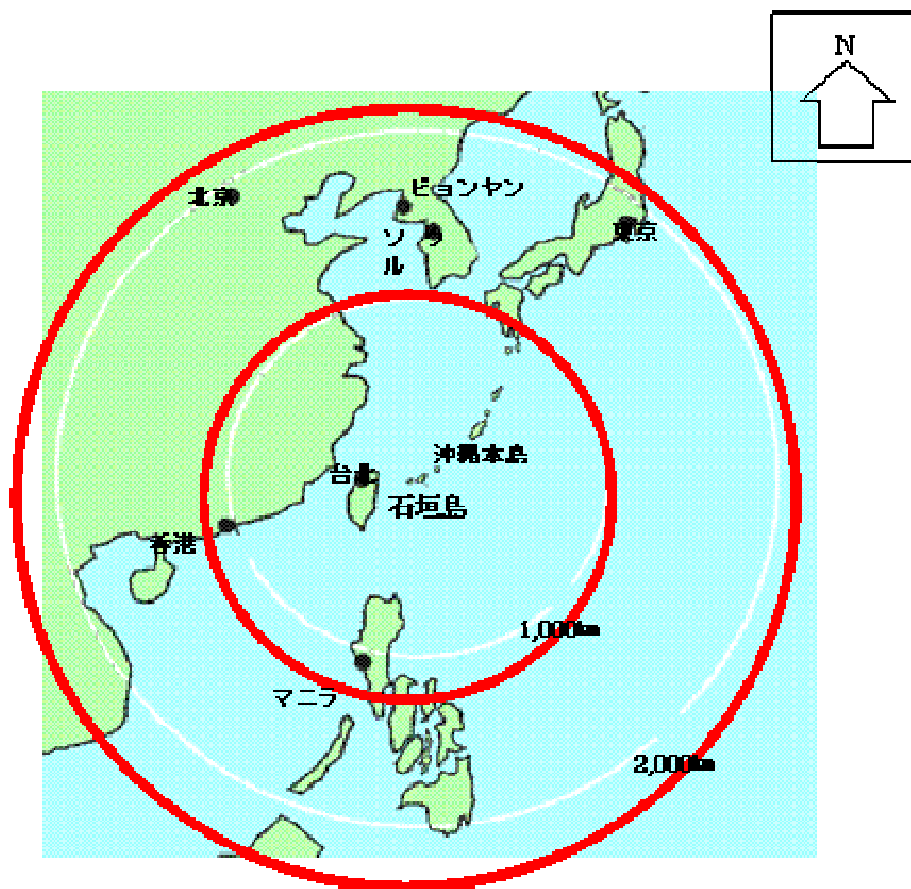


事例番号 150 海に開かれた交流によるまちづくり(沖縄県石垣市)

1. 背景

石垣市は台風常襲地帯に属する日本最南端の市(石垣島及び尖閣諸島)である(人口約 4 万 6 千人)。サトウキビ、水稲、野菜、熱帯果樹、畜産等の農業が主産業であるが、近年では観光客が増加傾向にあり、観光業が農業と並ぶ主産業になってきている。

人口は増加基調にあるが郊外化する傾向があり、中心市街地の活気は低下してきている。観光客の増加や人口の増加基調が中心市街地の魅力の引き上げに結び付いていないのが現状である。



石垣島の位置 (資料:石垣市、以下の資料も同じ)

2. 目標

「石垣市総合計画基本構想」(2001 年度～2010 年度)が掲げる目標は「日本最南端の自然文化都市」であり、都市の将来像は「光と風ゆめみらい交流都市いしがき」である。都市再生のスローガンも「海に開かれた交流によるまちづくり」である。

3. 取り組みの体制

市、市民、(株)TMO 石垣等の団体の協働でまちづくりが進められている。

4. 具体策

石垣市では 1999 年度に中心市街地活性化基本計画及び TMO 構想を策定し、(株)TMO 石垣を設立してまちづくりの体制を整えた。また、2003 年度に全国都市再生モデル調査の対象となった。コンセプトは「海に開かれた交流によるまちづくり」である。同調査は、社会実験を通じて、観光交流の拠点であり生活交通の拠点である石垣港を訪れる来訪者を中心市街地へ誘導する方策を検討するものであり、それを踏まえて、港づくりとまちづくりが連携した都市再生の実現に向けた「まちづくり行動計画」をとりまとめるものである。

社会実験は概略以下のように行われた。

実施時期 2004 年 2 月 16 日～2 月 29 日

実施内容

- ① 石垣港の「離島さんばし」から「730 交差点」(港の出入り口)までの路面の着色
- ② 「離島さんばし」から「あやばにモール」(中心市街地)までの案内板の設置
- ③ 「730 交差点」付近における懸垂幕の設置(実験の PR)
- ④ 案内マップの配布



石垣港と商店街の位置関係

実験期間中を通して歩行者にアンケートを行うとともに、実験期間最終日にモール内個別商店にインタビューを行った。その結果、歩行者からは、活気のなさ、営業時間の短さ等が指摘された。また、商店からは、モールの魅力向上(休憩場所や交流空間の確保等)が必要との声がきかれた。

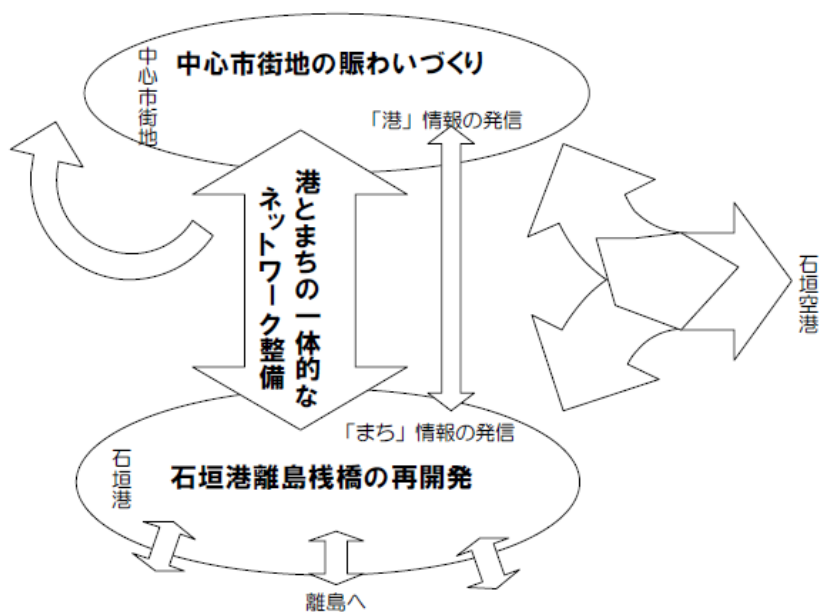
実験の仕様についての効果と課題

	効果	課題
案内板、懸垂幕	<ul style="list-style-type: none"> ・人の流れを誘導する上で設置の取り組み自体は有効であった。 ・懸垂幕は適当な大きさが分かりやすい。目印になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内板は、デザインや設置場所、見やすさ(サイズ、大きさ)等のバランスにもっと配慮して検討することが必要。 ・既存の案内板の活用や連携が必要だが、デスクスタイルのものは高さ等に問題がある。
路面着色	<ul style="list-style-type: none"> ・ミンサー織り模様の着色は、石垣をPRするのに有効である。 ・色合いについては様々な意見があったが、美観・景観上の役割も大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の仕様では着色区間が分断されており、連続性が必要。また、案内板等とのデザインの統一性が必要。 ・模様だけだと何のためのものか分かりづらいので、直接文字を入れるなどの検討が必要。
案内マップ	<ul style="list-style-type: none"> ・案内板だけでなく、紙のマップで持ち歩きできるものは有効。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さんばし等でもっとPRしながら配布すると良い。 ・デザインや記入する情報の量・質については検討が必要。

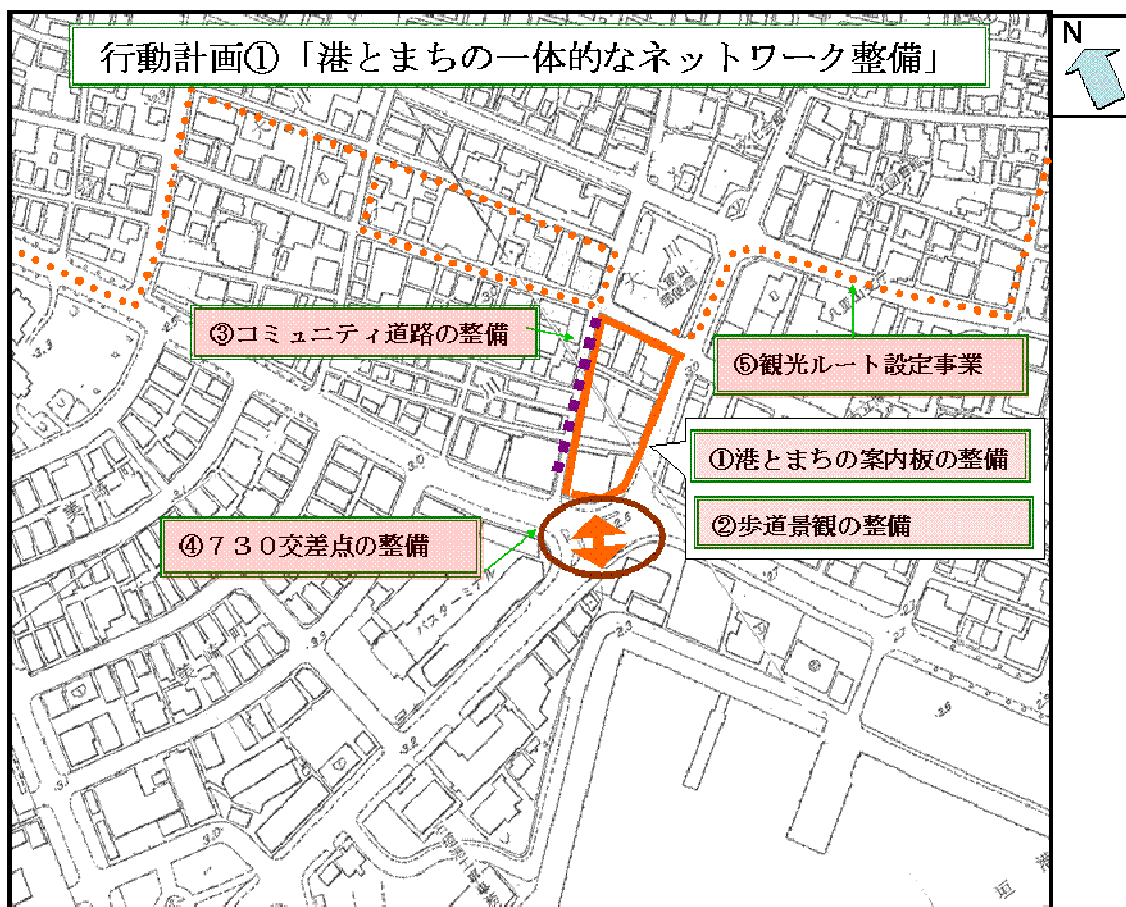
港づくり・まちづくりの課題

	課題
離島さんばし周辺	<ul style="list-style-type: none"> ・待合いスペース等のボリューム的な問題や、(船の)案内の不足、ごみ・吸い殻などの美化面での指摘が多くあげられた。
あやばにモール、公設市場	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者側からは、活気のなさ、営業時間の短さなどの指摘が多い。 ・商店側からは、案内板や路面着色等の継続も必要だが、観光会社との連携などソフト的なアプローチや、モールそのものの魅力の向上が求められている。具体的には休憩場所や交流空間を確保したり、生花をディスプレイしたりなどの意見があった。
730交差点	<ul style="list-style-type: none"> ・2段階横断の煩わしさや交通島で待たねばならないなどの点から、スクランブル化を望む意見は高い。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・モールや公設市場のさんばしにおけるPR、宣伝が必要。 ・複数ルートのネットワーク化が必要。 ・安全で歩きやすい路面の整備が必要。 <p style="text-align: right;">など...</p>

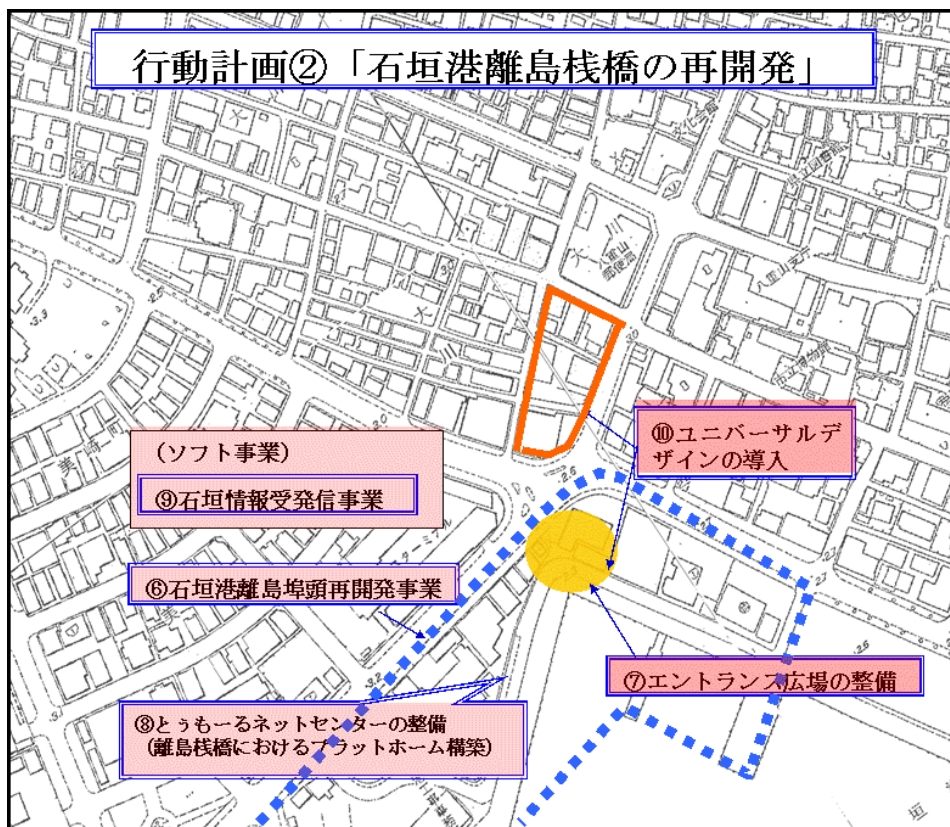
実験結果を踏まえ、「まちづくり行動計画」が以下のように設定された。



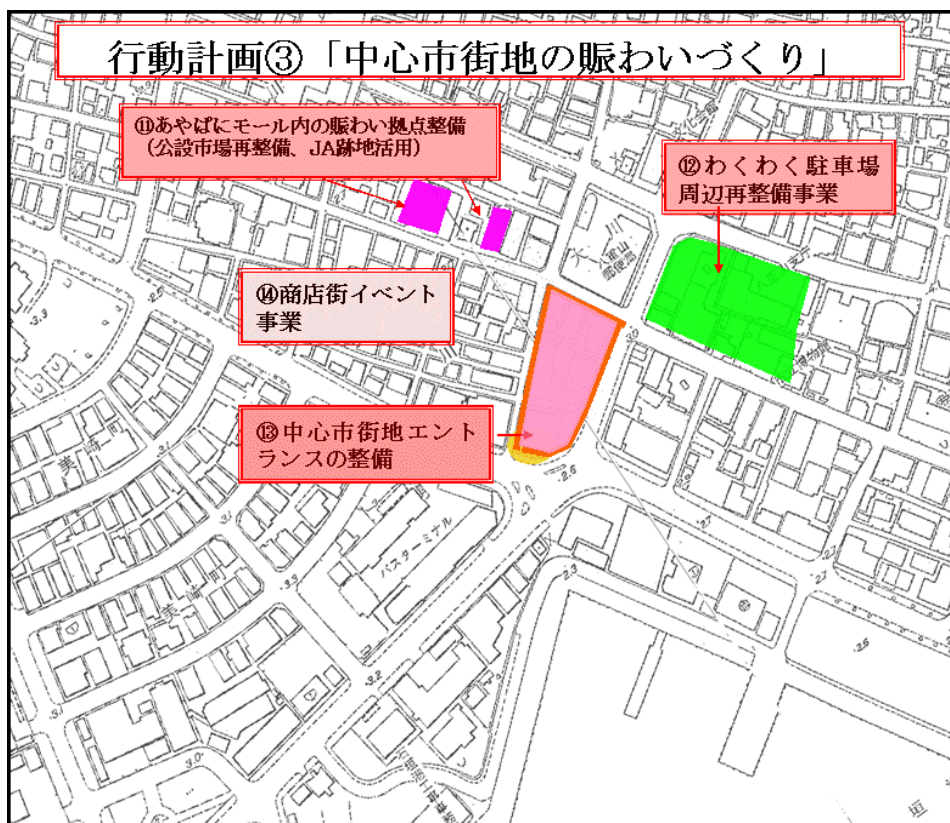
基本方針の概念図



まちづくり行動計画図①



まちづくり行動計画図②



まちづくり行動計画図③

5. 特徴的手法

素朴でわかりやすい簡便な実験を行い、今後の有益な指針を得た。

6. 課題

調査の結果、以下の課題が整理された。

① 市民との協働

港づくりとまちづくりの連携した都市再生の推進にあたって、市民の参加、市民との協働に留意しながら、様々な分野のまちづくりの人材育成に努めていくことが重要である。

② 既定プロジェクトとの調整

新石垣空港整備や、それに伴うアクセス道路の事業などをはじめとした既定プロジェクトと十分調整をしながら進めていくことが必要である。

③ マネージメント力の強化

中心市街地のまちづくりにあたっては、中心市街地活性化法で位置付けられた TMO である株タウンマネージメント石垣の役割が重要である。

④ 予算措置及び事業制度の検討

計画的かつ優先的な予算の調整及び確保が必要であり各種のまちづくりの事業制度の導入を積極的に検討していくことが必要である。

まちの人々の内発的な力をいかにまちづくりに結び付けるか、まちの人々と観光客との交流をどう図るか、という点も今後の課題であると考えられる。

(参考・引用文献)

石垣市ホームページ

伊藤滋編著『都市再生最前線』ぎょうせい、2005年